



国民の森林・国有林

中部森林管理局

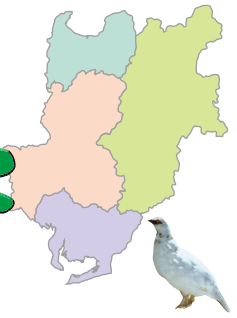
〒380-8575長野市大字栗田715-5

☎050-3160-6513

<http://rinya.maff.go.jp/chubu/>

広報

中部の森林



木材の衝撃吸収力を体験



2011・国際森林年

各地で木づかい推進月間の 関連行事が開催される



(P2~4に関連記事)

主 な 項 目	○ マスコミ関係者が国有林を視察.....	P2
	○ 木づかい推進月間行事	P2~4
	○ 各地からのたより	P4~6
	○ 風景紀行	P8

マスコミ関係者が 国有林を視察

「広報」十月二十日、絶好の秋晴れの
下、金曜会（長野県内マスコミ各社の報
道責任者の会）に対する国有林視察会を
実施しました。

中部森林管理局の取り組みを紹介する
ため恒例となっている視察会ですが、今
回は中信森林管理署管内の上高地を視察
箇所として、実施しました。

最初の視察箇所は、今年六月下旬に観
光客らが一時孤立状態となった土砂災害
発生箇所ワラビ沢で、中信署の下堂署
長、金井治山課長から、災害の発生状況
及び復旧計画、関係機関との調整事項等
の概要を説明。場所を移し同様に土砂災
害が発生した産屋沢についても確認しま
した。



産屋沢の災害状況を説明



善六沢の鋼製柵土留工施工地

その後、次の視察箇所であるケシヨウ
ヤナギ保護林設定予定箇所へ移動し、有
井流域管理調整官から、ケシヨウヤナギ
の基礎知識として国内では北海道のほか
上高地周辺の限られた地域にのみ分布す
る希少な種であり、長野県の準絶滅危惧
種に指定されていることと、新たに植物
群落保護林として設定する背景について
説明しました。

昼食を長野県登録有形文化財に指定さ
れている嘉門次小屋囲炉裏の間でとった
後、上高地ケシヨウヤナギ等林木遺伝資
源保存林として設定されている林内に入
り、ケシヨウヤナギを間近で確認してい
ただきました。

続いて、上高地という立地であるゆえ
に周辺景観にも配慮して施工した善六沢
復旧治山工事施工箇所へ案内し、鋼製柵
土留工の施工状況をご覧いただきました。

今回の視察では、国有林をフィールド
とした業務の一部を紹介しましたが、参
加者から「国有林の果たしている役割に
ついて理解を深めることができた。」と
の言葉をいただきました。最後に城土局
長から「現在、局署を挙げて森林・林業
の再生に向けた取り組みを行っているこ
とから、ご支援ご協力をいただきたい。」
との要請をして視察会を終えました。



大正池をバックに記念撮影

木づかい推進月間行事

木材の利用促進に向けて

「フェア」開催

「富山署」木づかい推進月間中の十月八
日、九日に「とやま木づかいフェア」が
富山県などの主催（林野庁後援）により

高岡市の高岡テクノドームで開催されま
した。

当フェアは「木ってすごい！木を
使って明るい未来」をテーマに富山県
民の皆さんに木材の良さや木造住宅の快
適性・安全性を理解していただくとも
に、家具・遊具などの木工品、木質バイ
オマスの紙やエネルギーへの利用など幅
広く木材利用を推進するため、また木材
の利用拡大を進めることが地球温暖化の
防止や森林整備に繋がることを見聞・体
感し普及するために開催されたもので
す。

開催にあつたのオープニングセレモ
ニーでは、富山県知事の挨拶などの後、
知事や名古屋事務所長らによるテーブ
カットが行われました。



テープカットの様子
(左から二人目が田中名古屋事務所長)



大勢の人で賑わう会場の様子

会場内には、企業ブースゾーンや家具ゾーンが設けられ、木造耐震住宅、ペレットストーブ、木製家具などの展示があり、家族連れの来場者が熱心に説明を聞いている姿が見受けられました。

また、ステージゾーンでは、木造公 共建築物に関するセミナーとして住宅 リフォームのテレビ番組で活躍している建築士の講演会などが開かれました。

地元農林産物や加工品の地産地消費 売コーナー、会場前のいすや木笛などの木工教室、丸太切り大会も人気を集め、開催両日ともに大勢の人で賑わいました。

「あづみ野環境フェア」

【中信署】十月八〜九日、安曇野市において、「みんなが安曇野の暮らしと環境を考えよう〜知ろうそして行動しよう〜」をテーマに安曇野市主催による、「あづみ野環境フェア2011」が開催され、中信森林管理署では木材の良さを知ってもらうためのブースを出展しました。

当日は、安曇野市内外で活動する団体が集まり、会場には環境問題や自然について学ぶことのできる、七十一団体のブースが出展されました。



宮澤安曇野市長へ木の性質を説明

二日間で中信森林管理署のブースには約百名が訪れ、木の衝撃吸収力を見ることのできる実験装置を体験し、木材の衝撃吸収力に驚くとともに、職員からの説明になるほど聞き入っていました。ま

た、リングなどの果実をつける木を磨いて作り上げられた木工作品の展示を行い、普段、その果実を食べたことはあっても、木そのものを見る機会はなかなかないため、来場された皆様は作品に触れたり、匂いを嗅ぐなどして木からできた作品を堪能していました。

また、電気ペンによる名札作りも行い、子供から大人まで木のぬくもりを感じる作品作りに夢中になっていました。

来場者だけでなく、出展者にとっても、環境に関する活動を行っている個人・団体が情報交換をしながら交流を深めることのできる良い機会となりました。

木質バイオマスエネルギーの 利用拡大に向けて

【南信署】十月十六日（日）、長野県富士見町の西岳国有林に所在する「多摩市民の森」（遊々の森）で、東京都多摩市の市民ボランティア団体「フレンドツリーサポーターズ」、多摩市・富士見町、上伊那森林組合及び当署職員約四十名が参加して、間伐材の搬出作業を実施しました。

当作業は、木質バイオマスエネルギーの利用拡大に向けた森林ボランティア活動として平成十七年度から始まったもので、今回で七年目となります。

今回搬出した間伐材は、今年の五月から十月までの間に、多摩市の小学六年生



開会式の様子

約千二百名が間伐体験により伐倒したもので、搬出しきれずに残っていた木材の有効活用を図る目的で実施したものです。参加者は、一・六割に玉切りしたカラマツ材等約二十立方メートルを人力で、林内から林道端まで約百メートル搬出しました。

搬出された間伐材は、トラックで上伊那森林組合のペレット工場に運ばれ、ペレットストーブの燃料に加工されます。

ここで活動を行っているボランティア団体は、年五回この地を訪れ間伐作業等の森林整備を実施しており、この日が最終日ということで、前日の雨天の中での作業に続き、早朝より作業に取り組んでいただきました。

当作業を通じて、上下流の連携を深めるとともに、自然エネルギーが近年見直される中、今後の利用拡大と木質、バイオマスエネルギーの普及を通じて、木づかい運動が国民全体に広がることを期待しています。



林内から間伐材を搬出するボランティア

各地からのたより

中信森林管理署 育樹祭

(森林整備とあがりこサワラで森林教室)

〔中信署〕十月六日、北安曇郡松川村において、中信森林管理署主催による育樹祭を開催しました。

この育樹祭は、地域の国有林において育樹作業を行うことで、森林を育てることの重要性に関心を持っていただくこと

もに、森林環境教育のフィールドを兼ねて、地域と連携した取組となることを目的とし、現在、松川村と協定締結に向けて進めている「あがりこサワラ郷土の森」のお披露目も併せて実施しました。

当日は、地元の松川村長始め関係市町村等の関係者や長生会からの九名も含めた来賓約三十名と松川小学校五年生児童・教職員約百名の総勢約百三十名が式典終了後ヒノキの間伐作業を実施しました。来賓の間伐箇所は急傾斜のうえ間伐木も太く、参加者は安全に配慮した間伐を保ちながら大粒の汗を流し、一本一本丁寧に間伐を実施しました。



熱心に作業を行う児童

作業終了後は、適度な空間ができ、林床に日が差し込んだことから、全員で達成感を共有できました。間伐作業に参加した平林松川村長からは、松川村に所在する国有林で育樹祭が開催されたことに

対し、感謝の言葉があり、来年も松川村での開催を望まれました。

また、松川小学校の児童は森林整備の意義を中信署職員より事前学習で学んでおり、このことを踏まえて作業を行い、普段は体験することのできないのこぎりでの作業を意欲的に協力して行っていました。

午後からは場所を移動して森林教室を行い、治山堰堤を見ながらの治山事業の説明を受けたり、地域の貴重な環境資源である「あがりこサワラ(※)」の見学会を行いました。児童たちはその迫力に圧倒されていました。

参加した児童たちは「治山のことや、森林を守る工夫がよくわかった」と話し、森林を育てることの大切さを学んで



あがりこサワラを説明

いました。

※あがりこサワラ：台伐りを行った際、側枝の生長を促すことにより形成された独特な樹形をしたサワラのこと。

森林インストラクターと協力

法人の森「日本興亜の森林」の森林教室

〔南信署〕十月八日、南信署管内の西岳国有林にある「日本興亜の森林」(法人の森)で第十九回森林教室が開催されました。

この法人の森は日本興亜損害保険と一九九八年に契約したもので、毎年「日本興亜おもいやり倶楽部」が主催となり、日本興亜損害保険関連の社員(及びその家族)を対象に間伐体験を主とした森林教室が行われてきました。

これまで、本イベントの指導を当署職員主体で行ってきましたが、今年度は森林インストラクター会と協力することでより充実したイベント内容にすることができました。

参加者五十三名(大人四十三名、子供十名)を、午前は大人を八班に分けて間伐体験、子供は間伐箇所とは離れた林道上で森林レクリエーションを実施しました。

間伐班は胸高直径十四〜十六センチの四十年生のカラマツを伐倒、玉切りし、林道沿いまでロープを用いて搬出しました。この間伐材の一部はペレットの材料